筑波大学名誉教授の会会報

第12号　2007年4月発行
〈題字：中村伸夫〉

「筑波大学名誉教授の会」の会長就任の挨拶

佐藤　泰正

はからずも，筑波大学名誉教授の会長に選出されましたが，少しでも皆様方のお役に立てればと考えている今日このごろです。

名誉教授の会は会員相互の親睦をはかることが大きな目的ですので，その目的を達成することを第一に考えたいと思っております。

他方，筑波大学の充実発展に期待する思いが共通にあると思います。そして，独立行政法人化した筑波大学の発展に何らかの形で少しでもお役に立てればという気持ちを皆様お持ちのことと思います。

私は筑波大学在職時代に学系長，学校教育部長，副学長などを経験し，多くの先生方や事務官とお付き合いすることができました。筑波大学退職後はいくつかの大学設置の仕事に関係し，名誉教授の先生方に大変お世話になりました。同じ職場で過ごした方々にご協力いただいたからこそ出来得た仕事だと思っています。先生方は単なる親睦以上に私の人生にとって感謝しきれない大切な存在であると思っています。

21世紀のキーワードに高齢化，情報化が挙げられていますが，名誉教授の先生方もこうした新しい波に乗って元気でご活躍のことと思います。名誉教授の会も高齢化の波に乗って会員数がますます増加することと思われますし，情報化の波は会員相互の情報の入手を容易にすることと思います。この会の大きな目的である会員相互の親睦を盛んにしていけたらと思っています。同じ職場で仕事をしたということを楽しい思い出として残していきたいと思います。

皆様のご健勝とご活躍，ご発展を心からお祈りし，会長就任の挨拶とします。

（日本医療科学大学学長）

従来の名誉教授の会の部屋は，大学展示コーナーになり，新しく総合交流会館　同窓交流室が出来上がった。

「世界ベテランテニス選手権大会出場記」

勝田　茂

私は2000年３月，ミレニアムの年に筑波大学を定年退官しました。早いものであれから７年が経ち昨年古稀を迎えました。在職時は体育科学系に所属し，専門は運動生理学で骨格筋線維の可塑性を主な研究テーマにしていました。

現在力を入れているテニスは，30歳を過ぎてから自己流で始めたいわばセカンドスポーツですが，昨年図らずも世界ベテランテニス選手権大会の日本代表として出場の機会を得ましたので，シニアスポーツの紹介も兼ねてその様子を話させていただきたいと思います。

テニスの世界一を決める国別対抗戦では，デビスカップ（男子）やフェデレーションカップ（女子）などがよく知られていますが，この大会はそのシニア版とも言うもので，35歳から５歳刻みで年齢別に部門が設けられており，男子は80歳以上，女子は75歳以上の部まであります。毎年世界中のどこかの国で行われていますが，2006年はトルコのアンタルヤ市で，地中海に面したリゾート施設内に61面のテニスコートを持つ holiday village を会場として，10月下旬に１週間ほどの日程で行われました。

試合は団体戦で，シングルス２試合，ダブルス１試合を行い，２勝した方が勝ちになります。私は男子70歳以上の部に出場しました。このクラスには世界13カ国が出場。まず４グループに分かれて総当りの予選ラウンドが行われました。日本はアメリカ（今回優勝）やスペイン（同６位）といった強豪と同じグループに入り，決勝トーナメント進出はならず，順位決定戦ではオランダに敗れトルコに勝ち11位でした。外国勢はとりわけシングルスが強く殆ど歯が立たないという感じでした。私が出場したダブルスは，アメリカ，スペイン，オランダ，トルコの４カ国と戦い，優勝したアメリカチームには３セットマッチのファイナルセット負けとなりましたが，他の３カ国にはいずれも２セット連取のストレート勝ちをして，３勝１敗と「初めてにしては上出来だったのでは」という感じで帰国しました。

この大会に出かける前に，自分のテニスが世界で本当に通用するのかどうかを試してみたいという気持ちもあり，「とにかく１勝すること」を目標にしていましたので，大会初日にいきなりスペインのペアに勝てたときは最高の喜びでした。翌日のアメリカ戦では，第１セット思いがけず４－２とリードしたと思ったら逆転され４－６，第２セットは６－３で完勝しイーブンにもちこみましたが，ファイナルセットは力及ばず２－６で失い敗れました。団体戦とはいえ，世界ランキング１位のペアが名も知らぬ日本のペアに負けるわけには行かないと思ったのでしょう，ファイナルセットは本人たちはもとよりベンチコーチも応援席も必死のようで異様な盛り上がりとなりました。２時間半を超える試合が終わって，ネット越しに握手をしたときアメリカペアからビールを飲もうと誘ってくれ，シャツも着替えないままコート横のテニスバーでお互いの健闘に乾杯しました。その後も会場はもちろん食事のときにはレストランで会うたびに声をかけて立ち話をするほど仲良くなりました。最終日，次の大会での再会を約束して帰りましたが，コートで新しい友人ができたことを大変嬉しく思っています。

世界選手権大会は団体戦に引き続き同じ場所で個人戦も行われており，こちらはランキングなどに関係なく自由参加です。年齢別の部門も男子は85歳以上，女子は80歳以上のシングルス・ダブルスがありますので，観光なども兼ねて，テニスに趣味をお持ちの方は参加されてみては如何でしょうか（ITF の HP 参照）。テニスはコートで一度ゲームをすれば誰でもすぐ友達になれます。古稀を過ぎてから新しい外国の友人ができるなんて，本当にすばらしいことだと思います。

大会に行って初めて感じたこと，それは自分がまだまだ若僧だなということです。世界には80歳を超えても矍鑠（かくしゃく）としてプレーをエンジョイしている人たちがたくさんいることを知って驚かされます。いくつになっても，いつからでも never too late の精神で，スポーツも生きがいに足ると思っているこの頃です。

新入会員から

社会科学系　庄子良男

名誉教授として筑波大学の研究スタッフの一員に位置づけいただきましたことをありがたく思っております。現役時代は東京地区の企業法学専攻と法曹専攻で社会人教育に携わりました。学問に志す実務の専門家である学生たちとの切磋琢磨は，激務でしたが，楽しみでもありました。その交流は，自発的な研究会の形で現在も続いております。定年とともに早稲田大学会計大学院教授になりましたが，この４月からは御茶ノ水にある駿河台大学法科大学院教授として，研究と教育を続けて参りたいと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。

教育学系　山本眞一

筑波大学には1992年から14年間お世話になりました。その間，大学研究センター長を10年間務め，また企画調査室の委員として筑波大学の改革課題に取り組ませていただいたことは貴重な経験です。法人化以降，国立大学の様子は従来の大学観から見ると大きく変わりました。そのような中，現在は広島大学の高等教育研究センター教授としてさらに研究や実践に努めておりますので，どうぞよろしくお願い申し上げます。

物理工学系　浅野侑三

毎年５千人の人口の減る島根県に，何かの役に立ちたいと思って移り住みました。主に県庁と産業技術センターを対象とした技術英語指導と国際交流の面では，少しは貢献できたと思っております。山海の珍味と美酒に恵まれ，豊かな（時には豊か過ぎますが）水に囲まれた美しい所で楽しく暮らしております。山陰フィルハーモニー管弦楽団に入団して，本拠地松江をはじめ，いろいろな町で演奏会に出演しております。

社会工学系　黒田　誼

途上国における飢餓問題をいかにすれば緩和でき経済発展の軌道に乗っけることができるだろうかという問題意識の下に，農業におけるＲ＆Ｄの経済効果の計量経済学的研究に取り組んできました。平成18年４月からは，福岡市にあろ九州経済大学にて，経済政策や開発経済学を教えております。教育・研究に結構忙しい毎日を送っておりますが，一方で，博多湾での釣りや，我家から歩いて１分のところにある九産大水泳プールで水中ウオーキングや水泳を楽しんでおります。

機能工学系　青島伸治

27年間お世話になった筑波大学を平成18年３月に定年退職し，その後は千葉県市原市にある帝京平成大学教授になって現在に至っています。帝京平成大学へは授業のある日しか行きませんので，１年のうち３分の２以上はつくば市内の自宅で過しています。授業での必要から今まであまりなじみのなかった有機化学の初歩やエクセルのプログラミングをゆったりと勉強したり，孫と遊んだりして，ほとんど引退した人生を十分に楽しんでいます。

地球科学系　斎藤　功

２つの大学で３コマの非常勤講師をやらさせて頂いた。筑波大学では多くの専門を同じにする同僚がいたので，自己の専門分野の授業ばかりしていれば良かったのに，非常勤ではもっと幅広く話さなければならないと痛感させられた。４月から新設の環境ツーリズム学部で通年３コマの授業と２コマのゼミをしなくてはならなくなった。この１年の経験を活かし，のんびりと楽しみながら授業をしようと思っている。

生物科学系　高橋三保子

定年退職とは，もう働く必要がない，と宣告されたはずなのに，「これから何をしてゆくのか」何度聞かれたことだろう。現在，在職中に分離した原生動物ゾウリムシの突然変異体を，いくつ誰かが研究に必要とするに違いないと期待し，自宅に小さな小屋を造り，年金生活者にはとてもコスト（消耗品や電気料など）がかかることを実感しながら，細々と維持している。やはり，ゾウリムシを覗いているのは気が休まるひとときである。

生物科学系　及川武久

30年近くお世話になった筑波大学を昨年退官し，重い荷物を下ろしたような安堵感・開放感に浸る昨今である。それにしても最近の大学を取り巻く環境は厳しいようで，現役の方々のご苦労を聞くにつけ，不安な気持ちにおそわれる。目先だけの成果に追われ，学問の本質的な進展を阻害するような昨今の風潮は嘆かわしい。私も一人の筑波大学 OB として，何かお役に立てることがあれば，これまでの恩返しをしたいとも考えている。

生物科学系　藤井宏一

大学の卒業研究のために実験室でマメゾウムシを飼育し始めて以来，滞米中の11年余を含めてマメゾウリムシの個体数を実験室で40年ほど数え続けてきた。しかし，定年前の数年間は大学運営に時間を割かれ，いつしか実験室から遠ざかってしまい，つくづく自分は二足のわらじを履くことができないということを実感した。定年後はそのブランクを取り戻すべく，古巣のラボで虫勘定を再開し，研究の面白さにあらためて興奮している。

応用生物化学系　鈴木隆久

東京教育大学から筑波大学へと39年間勤務し，平成18年３月末日に定年退官しました。専門は昆虫を中心とする生物間の情報化学物質を解明する化学生態学です。定年後は，研究とは離れて，大学以来趣味で撮り続けている野生植物（1000種を越える）写真集を自費出版したいと考えており，写真やデータの整理，原稿の作成などを少しづつ進めています。これからも筑波大学の一層の発展を見守って生きたいと思います。

応用生物化学系　田中秀夫

筑波大学および東京教育大学で，計40年間お世話になりました。退職後４月より，大学の産業リエゾン共同研究センターのシニアコーディネーターとして，大学の知的財産を産業界でいかに活かしていくか，また，大学の研究成果の中から，特に，基本特許をいかに誕生させていくか，などについて努力中です。筑波大学の活性化に少しでもお役にたてば幸いと思っております。

農林工学系　富田文一郎

筑波大学には平成３年11月に着任し，昨年３月の定年退職まで13年５ヶ月間お世話になりました。現在は，（社）日本木材加工技術協会の会長をさせていただいています。専門は，木質材料の接着，複合化，化学加工などの分野でしたが，今後は新しい木質系バイオマス利用技術の開発や，地球環境と資源面からその重要性の普及活動，さらにはこれらの研究に携わる若い研究者への支援などをしていきたいと思っています。

農林工学系　前川孝昭

平成16年１月，定年の３ヶ月前に国際農業工学会（CIGR）事務局長に就任し，３月27日及び28日には事務局開設記念講演会や役員会をこなしました。このため定年を迎えた実感がありませんでした。同年９月，ドイツ国 Bonn 大学での国際会議を成功裏に終了させました。現在，２年後のブラジルでの国際会議の準備に取り掛かっています。この国際農業工学会は，FAO，UNEP，ISO や ICED などとも緊密な連絡をとっていますので，気の抜けない仕事の連続です。４年間の任期で，残り３年間をこなせば，楽になると思います。外国人の教え子が，各国の農業工学会で活躍し，たまに連絡をしてくることに清涼感を覚えます。

基礎医学系　後藤勝年

エンドセリン受容体拮抗薬も肺高血圧治療薬として臨床応用され（残念ながら開発したのは外国の企業），研究は一区切りついた感じです。2006年３月に定年退職し，特任教授としてノンビリ過ごしていたところ，急に JST サテライト茨城の館長を引き受けるよう依頼され，実質８月からその任についています。産学官連携の拠点としての役割は予想していたよりも重要でしかも面白い内容であり，楽しく勤めています。

教育学系　渡邊光雄

定年退職後，水戸市内の学校法人常盤大学で教育学関連の授業を担当しています。筑波大学在職中の長きに及んだ研究と教育の経験は，競争的な情報社会における大学と大学人の生き残り術のみならず，情報社会における私学教育のあり方をも教えてくれました。これまで培ってきたドイツロマン派の教育学研究を私学での情報環境に適合した教育に活かせるかどうか，このことが現在の課題となっております。

体育科学系　中村良三

人生の半分を筑波大学で過ごしましたが，４月からは千葉県新浦安に新設されました了徳寺大学に行っております。真下に東京湾を見ながら100人の一年生と新しい校風と伝統を作るべく張り切っております。講義は全学必修の武道文化論を担当していますが，他に学生部長も受け持っており記念すべき第１回の学園祭も小規模ながら好評のうちに終えることもできました。とにかく新大学の学生のためにもう一踏ん張りしたいと考えております。

体育科学系　佐伯年詩雄

学生時代を含めると，東京教育大学に11年，筑波大学に29年の計40年を本学で過ごしたことになる。この間，移転と独法化という二度の荒波を経験したが，伝統のみにしがみつかない進取の気性で，見事に乗り切ってきたように思う。このことに学んで，今，埼玉の平成国際大学でスポーツのライバルを育て，筑波スポーツを鍛えたいと思うからである。私なりの恩返しである。

体育科学系　武井光彦

筑波大学開学時より体育専門学群に勤務し，平成18年３月末日に定年退官をいたしました。同年４月，茨城県龍ヶ崎市にあります流通経済大学に新設されたましたスポーツ健康科学部に勤務することになり，引き続きバスケットボールを中心としたボールゲーム関係の研究らしきものを続けております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

芸術学系　三村翰弘

昭和47（1972）年に東京教育大学に赴任して以来，34年間の教員生活でした。在職中は，わが国において，多くの領域に細分化されたデザインを統合化する「環境バランス」分野の確立に粉骨砕身してきました。21世紀になり，地球規模での生態系バランスの課題が大きくなり，ようやく当該分野の存在価値も認知されてきたところです。最近は「象牙の塔」から出て，まちづくりや環境保全の「現場」に立って微力を尽くすようにしています。

図書館情報学系　石川徹也

図書館短期大学，図書館情報大学，筑波大学と時代の変遷と共に歩んでまいりました。定年まで３年を残し，新設されました東京大学・史料編纂所・前近代日本史情報国際センターに特任教授として移り，現在，歴史情報学の創設に取り組んでおります。筑波大学の方は１年間，客員教授として主に博士課程の学生の研究指導を行ってまいりました。筑波大学の一層の発展を見守っていきたいと思っています。

編集後記

平成19年度は本学の内部でも大きな変化が感じられる。大学会館の事務局が新しくなり，ノーベル賞受賞者の朝永振一郎，江崎玲於奈，白川英樹のお三人の記念展示室が大学会館事務局に隣接して出来上がった。筑波大学名誉教授の会については，佐藤泰正先生が会長になられ，早速，本誌にご挨拶を寄稿していただいた。先生は会報誌にはもっと身近な方々の情報が載るようにしたいというお考えで，今回は，定年後もテニス界で大活躍されている名誉教授の勝田茂先生にご執筆をいただいた。このようなフレッシュで私たちを元気付けてくれる記事内容が加わったのは，新しく会報担当になってくださった杤堀申二先生のおかげである。また，新しく名誉教授の会になられた20名の先生方からご挨拶をいただきありがとうございました。

（会報担当：島岡　丘）